

社会福祉学科 2年前期 専門科目

1. 社会福祉の原理と政策Ⅱ
2. ソーシャルワークの理論と方法(共通)
3. 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ
4. 社会保障Ⅱ
5. 生活支援技術Ⅲ
6. 生活支援技術Ⅳ
7. 介護過程Ⅱ
8. こころとからだのしくみⅢ
9. 発達と老化の理解Ⅰ
10. 認知症Ⅰ
11. 障害の理解Ⅰ
12. 医療的ケア基礎
13. 介護総合演習Ⅱ
14. ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ
15. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ
16. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ
17. ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ
18. ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
19. 精神医学と精神医療Ⅰ
20. 現代の精神保健の課題と支援Ⅰ
21. 精神保健福祉の原理Ⅰ
22. 精神ソーシャルワークの理論と方法(専門)Ⅰ
23. 精神ソーシャルワーク演習(専門)Ⅰ
24. 精神ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ
25. 精神ソーシャルワーク実習指導Ⅰ
26. カウンセリング基礎理論
27. 心理学基礎実験
28. 心理学基礎実習
29. 介護実習Ⅱ-①
30. ソーシャルワーク実習Ⅰ
31. 精神ソーシャルワーク実習Ⅰ
32. 福祉心理研究Ⅰ

社会福祉学科

科目名: 社会福祉の原理と政策Ⅱ				担当教員 氏名: 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) 福祉心理士
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有す教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う						
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
①福祉政策の動向と課題を踏まえ、諸施策や包括的支援について理解する。 ②福祉サービスの供給と利用の過程について理解する。 ③福祉政策の国際比較の視点から、日本の福祉政策の特性について理解する。						社会福祉 理念 歴史 制度
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9	
A	知識・理解力		社会福祉の理念と必要性について理解することができる			
C	論理的思考力		社会政策や社会福祉の供給体制について理解することができる			
D	問題解決力		理論を活用して実践に結びつける力を身につける			
F	チームワーク・リーダーシップ		先人による福祉実践から彼らのリーダーシップや福祉観を考察する			
G	倫理観		政策決定(プロセス含)における倫理観の必要性に気づく			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト:	50 %	レポート:	40 %	発表:	%	実技試験: % その他: 10 %
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な時間(分)	
①福祉政策の構成要素				【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②福祉政策の過程と評価				【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③福祉政策と包括的支援の現状				【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④福祉政策と包括的支援の課題				【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤保健医療政策				【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥教育政策				【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦住宅政策				【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧労働政策				【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨災害政策				【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩福祉供給部門				【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪福祉供給過程				【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫福祉利用過程				【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬福祉政策の動向(欧米)				【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭福祉政策の動向(東アジア等)				【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ				【事前】テキスト全体を読む 【事後】授業全体の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座4「社会福祉の原理と政策」中央法規 ISBN978-4-8058-8234-4				その他参考文献など: 「厚生労働白書」厚生労働省		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 事前・事後学習において、テキストだけでなく、参考文献や授業で紹介する本、論文等にも目を通してください。Google ClassroomやGoogle Formsを連絡や評価に使用します。						

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワークの理論と方法(共通)			担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修) 福祉心理士
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
①人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークについて理解する。 ②ソーシャルワークの様々な実践モデルとアプローチについて理解する。					ソーシャルワークの実践モデルとアプローチ、ジェネラリスト
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 6. 9. 10	
A 知識・理解力	ソーシャルワーク・アプローチの歴史的背景や概念等を理解する。				
B 専門的技術	ソーシャルワーク・アプローチを用いてクライアントを多角的に理解する技術を身につける。				
C 論理的思考力	ソーシャルワーク・アプローチを使ってクライアントが置かれている環境等を論理的に説明できる力を養う。				
D 問題解決力	理論や実践を理解することで問題解決の力を身につける。				
G 倫理観	ソーシャルワーク理論の根底にある専門職倫理を常に意識し実践力を身につける。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %	
特記事項: その他とは授業への姿勢、態度のことである。					
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストやレポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(システム理論、生態学理論)			【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②人と環境との相互作用に関する理論とマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク(バイオ・サイコ・ソーシャルモデル、マイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワーク)			【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③さまざまな実践モデルとアプローチⅠ 治療モデル、生活モデル、ストレングスモデル			【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④さまざまな実践モデルとアプローチⅠ ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデル			【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 心理社会アプローチ			【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 機能的アプローチ			【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 問題解決アプローチ			【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 課題中心アプローチ・中間まとめ			【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 危機介入アプローチ			【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩さまざまな実践モデルとアプローチⅡ 行動変容アプローチ			【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪さまざまな実践モデルとアプローチⅢ エンパワメントアプローチ			【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫さまざまな実践モデルとアプローチⅢ ナラティブアプローチ			【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬さまざまな実践モデルとアプローチⅢ 認知アプローチ			【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭さまざまな実践モデルとアプローチⅢ その他のアプローチ			【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ			【事前】今までの授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座12 ソーシャルワークの理論と方法(共通科目)」中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8242-9 C3036			その他参考文献など: 適宜紹介します。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ソーシャルワーク実践においては必要不可欠な知識と技術となるので、積極的な参加をお願いします。					

社会福祉学科

科目名： 地域福祉と包括的支援体制Ⅱ			担当教員 氏名： 宮嶋 潔			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次	前期	専門科目	講義	必修	介護福祉士受験資格(必修) 社会福祉士受験資格(必修) 精神保健福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う。						
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
地域福祉と包括的支援体制Ⅰに引き続き、地域福祉の展開の仕方を実践例を用いながら、近年の地域福祉の動向と結びつけ課題解決の方法を学ぶ。					コミュニティソーシャルワーク、地域共生社会、地域福祉ガバナンス	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9		
A 知識・理解力	地域福祉に関する知識を体系的に理解することができる。					
B 専門的技術	地域福祉を実践できる能力を習得する。					
C 論理的思考力	地域問題を複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。					
D 問題解決力	地域問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。					
G 倫理観	ソーシャルワークの価値と倫理を基本とし、実践活動を展開する。					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 20 %	発表： %	実技試験： %	その他： 30 %		
特記事項：上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークとプレゼンテーションを行う。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：テストやレポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①地域社会の概念と理論			【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
②地域社会の変化(世帯数、過疎化、地域間格差、外国人労働者等)			【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
③多様化・複雑化した地域生活課題(ひきこもり、ニート、8050問題、依存症、災害等)			【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
④地域福祉と社会的孤立の現状と介入方法(社会的孤立、社会的排除、セルフネグレクト)			【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑤地域共生社会の実現に向けた包括的支援体制(地域包括ケアシステムの概念と展開方法等)			【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑥生活困窮者の支援体制(生活困窮者自立支援法、生活困窮者の現状と支援方法)			【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑦ソーシャルサポート・ネットワークの概念と展開方法			【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑧多機関・多職種連携の促進(各種連携機関、連携方法の実際と展開方法)			【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑨福祉以外の連携(企業、農業、観光業等)・中間まとめ			【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑩災害と地域福祉Ⅰ(災害対策基本法、災害救助法等)			【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑪災害と地域福祉Ⅱ(災害時要援護者支援、福祉避難所、災害ボランティア等)			【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑫災害と地域福祉Ⅲ(被災者への支援とチームアプローチの展開方法)			【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑬地域福祉ガバナンス			【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑭事例検討(多問題家族の支援)			【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
⑮まとめ			【事前】今までの授業の復習	【予習】120分 【復習】120分		
使用テキスト：最新社会福祉士養成講座精神保健福祉士養成講座6「地域福祉と包括支援体制」中央法規 ISBN978-4-8058-8236-8			その他参考文献など：			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：普段から地域課題について意識して、新聞やニュースなどに興味を持ってください。						

社会福祉学科						
科目名: 社会保障Ⅱ				担当教員 氏名: 鷹西 恒		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	必修	社会福祉士受験資格(必須) 介護福祉士受験資格(必須) 精神保健福祉士受験資格(必須) 社会福祉主事任用資格
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士等資格を有した教員が、相談援助、自治体の福祉計画策定等の実務経験を生かして授業を行う						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
<ul style="list-style-type: none"> ・公的保険制度と民間保険制度の関係について理解する。 ・社会保障制度の体系と概要について理解する。 ・諸外国における社会保障制度の概要について理解する。 					社会保障の理念・歴史・概念、 所得保障制度、医療保障制度、 介護保険制度、労働保険制度	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 7. 8. 9	
A 知識・理解力		社会保障に関する知識を体系的に理解することができる。				
B 専門的技術		社会保障の各種制度を応用し、支援に活かせる能力を習得する。				
C 論理的思考力		社会問題について複眼的理論的に分析し、支援に活かせる。				
D 問題解決力		社会保障を巡る問題を解決するために必要な情報を収集・分析・整理し、その問題を確実に解決できる。				
G 倫理観		常にソーシャルワークの価値と倫理を元にして、実践活動を展開できる。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %		
特記事項: その他20%は授業の受講態度による。						
アクティブラーニング要素: (課題解決型学習) ディスカッション、ディベート (グループワーク) プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: レポート評価は適時、最終評価は筆記試験で実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 適宜コメントと採点をを行い返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な 時間(分)	
① 社会保障制度の体系(医療保険制度の概要Ⅰ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
② 社会保障制度の体系(医療保険制度の概要Ⅱ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③ 社会保障制度の体系(介護保険制度の概要Ⅰ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④ 社会保障制度の体系(介護保険制度の概要Ⅱ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤ 社会保障制度の体系(年金制度の概要Ⅰ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥ 社会保障制度の体系(年金制度の概要Ⅱ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦ 社会保障制度の体系(労災保険制度と雇用保険制度の概要)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧ 社会保障制度の体系(生活保護制度の概要Ⅰ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨ 社会保障制度の体系(生活保護制度の概要Ⅱ)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩ 社会保障制度の体系(社会手当制度の概要)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪ 社会保障制度の体系(社会福祉制度の概要)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫ 諸外国における社会保障制度(スウェーデン、ドイツ、イギリス、アメリカ等)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬ 諸外国における社会保障制度(社会保障の国際比較)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭ 諸外国における社会保障制度(社会保障の国際化)				【事前】当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮ まとめと振り返り				【事前】テキスト全体を読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 最新社会福祉養成精神保健福祉養成講座7 社会保障、中央法規、ISBN:978-4-8058-8237-5				その他参考文献など: 厚生労働白書、福祉六法		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): Google ClassroomやGoogle Formsを連絡や評価に使用します。						

社会福祉学科

科目名: 生活支援技術Ⅲ			担当教員 氏名: 長井 賢希、山端 京子、米原 恭子 武藤 早苗、精田 紀代美			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			介護福祉施設などにおける実務経験から、具体的な必要介護者像を事例に挙げ授業を行う。			
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
障害や疾病のある人について、医学的・心理的側面から理解し、必要な生活支援を障害別に学修することを目標とする。					生活支援 障害や疾病 多職種連携	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標(短 大マトリクス示される番号)		2. 5. 6. 9. 10	
A 知識・理解力			障害の理解をすることにより必要な介護を組み立てることができる。			
B 専門的技術			心身の状況に応じた生活支援技術を理解し、実践に結びつけるための根拠を考えることができる。			
F チームワーク・リーダーシップ			医療職等の他職種の役割を理解し、チーム参画して連携のあり方を学ぶ。			
H コミュニケーション力			障害や病気と共に生きる人の立場に立って考えることができる経験を積んで、社会福祉に生きる「私」になる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %		レポート: 30 %		発表: 30 %		実技試験: % その他: 10 %
特記事項: グループ演習・グループワークにより多様な価値観を理解し、個別ケアの視点における生活支援技術を考えます。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 各教員の担当する授業内における演習や、最終回に行うまとめの授業の中で評価に該当する演習や試験を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 演習の成果物や記入したシートは後日返却します。						
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座 介護福祉士養成講座編集委員会編集 中央法規出版【第2版】「生活支援技術Ⅰ」ISBN978-4-8058-8395-2(山端の授業で使用)、「生活支援技術Ⅱ」ISBN978-4-8058-8396-9(精田・米原の授業で使用)、「生活支援技術Ⅲ」ISBN978-4-8058-8397-6(長井の授業で使用)				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 各教員が行う授業及び演習は、介護福祉士にとって重要な知識や技術となります。授業終了後は各自で振り返りを行ってください。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容		学修に必要な時間(分)
回数						
1	家庭経営【山端】			4/9	テキスト第5章1節2節を読む 演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
2	家計の管理【山端】			4/9	テキスト第5章2節を読む 演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
3	整理と収納【山端】			4/16	テキスト第5章2節を読む 演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
4	掃除・ごみ捨て等の家事支援【山端】			4/16	テキスト第5章1節2節を読む 演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
5	衣類の機能【山端】			4/23	配布資料を読む 演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分

※前ページよりつづき 社会福祉学科

科目名: 生活支援技術Ⅲ		担当教員 氏名: 長井 賢希、山端 京子、米原 恭子 武藤 早苗、精田 紀代美		
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)		
		学修内容	学修に必要な時間(分)	
6	衣類の補修1【山端】	4/23	テキスト第5章2節を読む 習を振り返る	演 【予習】30分 【復習】30分
7	衣類の補修2【山端】	4/30	テキスト第5章2節を読む 習を振り返る	演 【予習】30分 【復習】30分
8	自立に向けた家事の介護と多職種連携【山端】	4/30	テキスト第5章3節を読む 習を振り返る	演 【予習】30分 【復習】30分
9	栄養を考えた要介護者への調理1【米原】	5/7	配布資料を読む・演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
10	栄養を考えた要介護者への調理演習【米原】	5/7	配布資料を読む・演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
11	栄養を考えた要介護者への調理2【米原】	5/14	配布資料を読む・演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
12	栄養を考えた要介護者への調理演習【米原】	5/14	配布資料を読む・演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
13	口腔ケアの基礎【精田】	5/21	配布資料を読む・演習を振り返る、テキスト第1章を読む	【予習】30分 【復習】30分
14	口腔ケアの応用【精田】	5/21	配布資料を読む・演習を振り返る	【予習】30分 【復習】30分
15	利用者の状態・状況に応じた生活支援技術とは【長井】	5/28	テキスト第1章を読む	【予習】30分 【復習】30分
16	肢体不自由に応じた介護の基本【長井】	5/28	テキスト第2章1節を読む	【予習】30分 【復習】30分
17	視覚障害に応じた介護の基本【長井】	6/4	視覚障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
18	視覚障害に応じた介護の事例検討【長井】	6/4	視覚障害の介護の基本を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
19	聴覚・言語障害に応じた介護の基本【長井】	6/11	聴覚・言語障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
20	聴覚・言語障害に応じた介護の事例検討【長井】	6/11	聴覚・言語障害にお介護の基本を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
21	重複障害に応じた介護の基本【長井】	6/18	重複障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
22	盲ろう障害に応じた介護の事例検討【長井】	6/18	重複障害の介護の基本を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
23	心機能障害に応じた介護【長井】	6/25	心機能障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
24	呼吸器機能障害に応じた介護【長井】	6/25	心機能障害の介護の基本について読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
25	腎機能障害に応じた介護【長井】	7/2	腎機能障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
26	膀胱・直腸機能障害に応じた介護【長井】	7/2	腎機能障害に介護の基本を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
27	小腸機能障害に応じた介護【長井】	7/9	小腸機能障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
28	免疫機能障害に応じた介護【長井】	7/9	免疫機能障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
29	肝機能障害に応じた介護【長井】	7/16	肝機能障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分
30	重症心身障害に応じた介護・まとめ【長井】	7/16	重症心身障害を読む、振り返る	【予習】30分 【復習】30分

社会福祉学科

科目名: 生活支援技術Ⅳ			担当教員 氏名: 中島 智子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	必修	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			看護師としての実務経験を生かして、障害や疾病のある人の生活支援、心理的側面について解説する。			
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード
障害や疾病のある人について、医学的、心理的側面から理解すること、生活上の困難さの理解、障害者疾病のある人への生活支援において、介護福祉士が果たすべき役割を理解することを目的とする。						障害の理解、疾病の理解、生活支援
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (短大マトリックス示される番号)		2, 5, 6, 9	
A 知識・理解力			障害、疾病について理解し、介護の知識を基本として安全に効果的にケアができるように身につける			
B 専門的技術			障害、疾病について理解し、介護の専門的な技術を身につける			
D 問題解決力			障害や疾病に関する基礎的な知識を習得し、対象者の状態変化の把握ができ、改善できる能力を身につける			
F チームワーク・リーダーシップ			利用者の状態、家族とのかかわりから多職種連携の中で、介護福祉士としての役割を発揮できる力を身につける			
G 倫理観			障害や疾病のある人の暮らし、さまざまな思いを理解し、尊厳の保持や自立支援を踏まえた介護実践に繋げる			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 20 %		発表: 20 %		実技試験: %
						その他: 10 %
特記事項:「その他」10%は、授業態度、グループワークの参加姿勢、授業出席状況を評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業終了後に、課題レポートを配布し、理解度を確認する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 課題レポートはコメントし、返却する。						
使用テキスト: 最新・介護福祉士養成講座8「生活支援技術Ⅲ」 中央法規出版 ISBN978-4-8058-8397-6				その他参考文献など: 「からだからわかるケアがわかる本」中央法規出版		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 障害や疾病について、事例を通して介護支援の実際を理解できるように、グループワークなどをしながら進めます。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容		学修に必要な時間(分)
回数						
1	「障害に応じた生活支援技術Ⅰ」 害の概念、基本的構成を理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる		【予習】30分 【復習】40分
2	肢体不自由に応じた介護を理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる		【予習】30分 【復習】40分
3	視覚障害に応じた介護を理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる		【予習】30分 【復習】40分
4	聴覚・言語障害に応じた介護を理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる		【予習】30分 【復習】40分
5	重複障害(盲ろう)に応じた介護を理解する			【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる		【予習】30分 【復習】40分

※前ページよりつづき

社会福祉学科

科目名： 生活支援技術Ⅳ		担当教員 氏名： 中島 智子	
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	(内部障害)心臓機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
7	(内部障害)呼吸機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
8	(内部障害)腎臓機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
9	(内部障害)膀胱・直腸機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
10	(内部障害)小腸機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
11	(内部障害)肝臓機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
12	(内部障害)HIVによる免疫機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
13	障害のある人の事例から介護福祉士としての役割や支援方法を理解する(1)	【予習】事例を読んで概要を理解して くる 【復習】事例からの役割を考える	【予習】30分 【復習】40分
14	障害のある人の事例から介護福祉士としての役割や支援方法を理解する(2)	【予習】事例を読んで概要を理解して くる 【復習】事例からの役割を考える	【予習】30分 【復習】40分
15	重症心身障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
16	障害のある人の生活支援の実際について理解する(1) グループワーク	【予習】事例を読んで概要を理解して くる 【復習】事例からの役割を考える	【予習】30分 【復習】40分
17	障害のある人の生活支援の実際について理解する(2) 発表	【予習】事例を読んで概要を理解して くる 【復習】事例からの役割を考える	【予習】30分 【復習】40分
18	障害・疾病の詳しい原因や症状、治療、制度的な位置づけを理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
19	知的障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
20	精神障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
21	高次脳機能障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
22	発達障害に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
23	障害を持つ利用者、家族への支援方法の実際を理解する(1) グループワーク	【予習】事例を読んで概要を理解して くる 【復習】事例からの役割を考える	【予習】30分 【復習】40分
24	障害を持つ利用者、家族への支援方法の実際を理解する(2) グループ発表	【予習】事例を読んで概要を理解して くる 【復習】事例からの役割を考える	【予習】30分 【復習】40分
25	難病の種類と医学的基礎を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
26	「難病」筋萎縮性側索硬化症(ALS)に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
27	「難病」パーキンソン病に応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
28	「難病」悪性関節リウマチに応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
29	「難病」筋ジストロフィーに応じた介護を理解する	【予習】テキストを読んでくる 【復習】テキストをまとめる	【予習】30分 【復習】40分
30	障害に応じた生活支援技術のまとめ	【予習】これまでの資料、事例分析を確認してくる	【予習】30分

社会福祉学科

科目名： 介護過程Ⅱ			担当教員 氏名： 長井 賢希			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか：			介護従事者の経験から介護過程の展開の実際について、事例を用いた授業を展開します。			
授業科目の学修教育目標の概要：						キーワード
介護福祉士には専門的知識・技術を根拠とした、客観的で科学的な思考過程による介護過程の展開能力が求められます。本科目ではその介護過程の計画の立案・実施・評価の過程、及び利用者の特性に応じた介護過程の実践知識を学びます。また、介護過程に向けた意識的な演習も行います。						計画の立案・実施・評価 記録方法 展開の実際
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1, 2, 5, 6, 9	
A 知識・理解力			介護過程展開のための知識を習得することができる			
B 専門的技術			目標達成に向けての援助内容を組み立てることができる			
C 論理的思考力			利用者の特性に合わせた介護過程を組み立てることができる			
D 問題解決力			利用者の課題を明確にし、適した実践ができるよう介護計画を立案することができる。			
E 自己管理能力			自立支援に沿った介護計画立案から評価までを、多職種連携によるアプローチの必要性を理解する。			
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 70 %		レポート： %		発表： %		実技試験： %
その他： 30 %						
特記事項：最終評価のためのテストは、介護過程の事例を用いた演習を行います。その他30%とは授業への取り組みの姿勢及び、提出物の遵守をいいます。個人による演習だけではなくアクティブラーニングの一環としてグループによるディスカッションを多く取り入れます。						
アクティブラーニング要素： 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期：29回・30回に評価のための演習を行います。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法：コメントや修正箇所を記入し返却します。						
使用テキスト：①最新介護福祉士養成講座「介護過程」第2版 中央法規出版 ISBN978-4-8058-8398-3 ②介護福祉士養成講座編集委員会 ICF国際生活機能分類 WHO 中央法規 ISBN978-4-8058-4417-5				その他参考文献など：「その人を中心に考える介護計画」毛利 亘・牛田 篤 著、現代図書		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)：演習には積極的に取り組んでください。また授業中の私語は十分注意してください。						
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)	
					学修内容	学修に必要な時間(分)
回数					【復習】60分	
1	介護過程Ⅰの振り返りの演習～各過程の理解				事前に介護過程Ⅰの授業を振り返る・演習を振り返る 【復習】60分	
2	介護過程Ⅰの振り返りの演習～情報の理解				演習を振り返る 【復習】60分	
3	情報の整理				演習を振り返る 【復習】60分	
4	情報の関連づけに向けて				演習を振り返る 【復習】60分	
5	気にかけて情報と関連性のある情報の把握				演習を振り返る 【復習】60分	

※前ページよりつづき

社会福祉学科

科目名： 介護過程Ⅱ		担当教員 氏名： 長井 賢希	
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	情報の繋がり、対象者の気持ちの理解	演習を振り返る	【復習】60分
7	情報を関連づけて解釈すること	演習を振り返る	【復習】60分
8	解釈文章の修正ポイント	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
9	解釈文章の留意点と自身の文章の傾向	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
10	生活課題の明確化に向けて	テキスト第2章3節を読む 演習を振り返る	【予習】60分 【復習】60分
11	生活課題を明確化する	演習を振り返る	【復習】60分
12	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習	演習を振り返る	【復習】60分
13	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 情報の整理	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
14	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 課題の明確化	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
15	実習記録の介護過程	演習を振り返る	【復習】60分
16	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 長期・短期目標	テキスト第3章4節を読む 演習を振り返る	【予習】60分 【復習】60分
17	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 実施と評価を見ずえた目標の作成	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
18	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 援助内容の組み立ての演習	演習を振り返る	【復習】60分
19	介護実習記録の理解と実習事例を活用した演習 実施と評価を見ずえた援助内容の組み立て・記述の振り返りと担当と頻度	演習を振り返る	【復習】60分
20	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習	演習を振り返る	【復習】60分
21	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 情報の整理	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
22	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 課題の明確化	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
23	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 長期・短期目標	演習を振り返る	【復習】60分
24	介護実習記録の理解と実習事例②を活用した演習 実施と評価を見ずえた目標の作成	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
25	演習の振り返り	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
26	利用者の特性に応じた介護過程 身体障害者療護施設での生活支援	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
27	利用者の特性に応じた介護過程 身体障害者療護施設での生活支援	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
28	実習記録用紙を用いての情報の収集演習	演習を振り返る・演習シートを修正する	【復習】60分
29	事例演習	これまでの演習シートを振り返る	【予習】60分 【復習】60分
30	事例演習	これまでの演習シートを振り返る	【復習】60分

社会福祉学科			介護福祉		2年	
科目名: ころとからだのしくみⅢ				担当教員 氏名: 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修) 社会福祉主事任用資格 キーワード
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
「ころとからだのしくみ」についてICFの視点に基づき、利用者の身じたく、移動、食事、入浴・清潔保持などの生活場面における根拠に基づいた生活支援ができる。これらの学習は、実践現場で他職種との協働の際に、より深く学んでいくための基礎となる重要な科目である。						心と体のしくみ 心身機能 根拠 ICFの視点
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力			人体の構造や機能を学び安全な生活支援ができる知識や技術を習得する。保健医療に関する基礎知識について理解する。			
B 専門的技術			根拠に基づいた生活支援の実践を通して介護に関わる専門性を発揮する。			
D 問題解決力			ICFの視点から情報を収集・分析して、利用者のニーズに応じた生活支援ができる。			
H コミュニケーション力			心身のケアを通して、他者に共感でき、相手の立場に立って考えることができる姿勢を身につける。			
F チームワーク・リーダーシップ			生活場面における心と体の変化や気づきから、医療職との連携が図れる。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 30 %	レポート: 40 %	発表: 10 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: その他の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第8回目にレポート提出を課す。第15回目に全体的な総括と理解度を確認をする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
①「ころとからだのしくみ」についてオリエンテーション				【予習】心と体の関連性を考えてくる 【復習】①の復習	【予習】30分 【復習】30分	
②身じたくに関連したしくみ(身じたくのしくみ)				【予習】テキスト第3章第1節を読む 【復習】②の復習	【予習】30分 【復習】30分	
③心身機能の低下が身じたくに及ぼす影響を理解する				【予習】テキスト第3章第2節を読む 【復習】③の復習	【予習】30分 【復習】30分	
④身じたくについて変化の気づきと対応				【予習】テキスト第3章第3節を読む 【復習】④の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑤移動に関連したしくみ(移動のしくみ)				【予習】テキスト第4章第1節を読む 【復習】⑤の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑥心身機能の低下が移動に及ぼす影響を理解する				【予習】テキスト第4章第2節を読む 【復習】⑥の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑦移動について変化の気づきと対応				【予習】テキスト第4章第3節を読む 【復習】⑦の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑧ICFの視点で事例を通して学ぶ				【予習】①～⑦の配布プリントを読む 【復習】⑧の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑨食事に関連したしくみ(食事のしくみ)				【予習】テキスト第5章第1節を読む 【復習】⑨の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑩心身機能の低下が食事に及ぼす影響を理解する				【予習】テキスト第5章第2節を読む 【復習】⑩の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑪食事について変化の気づきと対応				【予習】テキスト第5章第3節を読む 【復習】⑪の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑫入浴・清潔保持に関連したしくみ(入浴・清潔保持のしくみ)				【予習】テキスト第6章第1節を読む 【復習】⑫の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑬心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響を理解する				【予習】テキスト第6章第2節を読む 【復習】⑬の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑭入浴・清潔保持について変化の気づきと対応				【予習】テキスト第6章第3節を読む 【復習】⑭の復習	【予習】30分 【復習】30分	
⑮まとめ				【予習】⑧～⑭の配布プリントを読む	【予習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座11『ころとからだのしくみ第2版』中央法規出版 ISBN978-4-8058-8400-3 C3036				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介をする。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布資料は、ファイル等で各自保管してください。この科目は、生活支援技術の根拠となる分野である。しっかりとマスターしてください。						

社会福祉学科

2年

科目名: 発達と老化の理解 I				担当教員 氏名: 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか:		複数の介護福祉士が一つの施設で仕事するときには、チームワーク、協調性が必要になります。施設で必 要とされる介護福祉士になるためにはどのような心掛けが必要か授業で話をします。				
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
介護を必要とする人の理解を深めるために、人間の成長と発達の観点から人の一生に ついての知識を習得します。成長・発達の考え方、成長・発達の原則や影響する要因な ど基礎的な知識、ライフサイクル各期における身体的・心理的・社会的特徴と発達課題 および特徴的な疾病について学びます。						成長、発達、老化
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			1. 2. 5. 6. 9. 10
A 知識・理解力			授業内容を理解する			
B 専門的技術			介護理論の実践			
C 論理的思考力			担当者の状況を総合的に把握する思考力をつける			
D 問題解決力			自分で考え、わからなければ相談する。やり遂げるという習慣を身に着ける			
E 自己管理能力			向上するために、自己修正できる。医療者にふさわしい徳育を身に着ける			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %	レポート: 40 %	発表: 20 %	実技試験: 0 %	その他: 20 %		
特記事項: 自分で調べてレポートを作成すること、他者の真似はしないこと						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 デスカッション、デバート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 前記、後期						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートを採点して返却						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①オリエンテーション			発達と老化の理解を読む	60分		
②成長・発達の考え方について			成長・発達の考え方を読む	60分		
③成長・発達の原則・法則について			成長・発達の原則・法則を読む	60分		
④成長・発達に影響する要因について			成長・発達に影響する要因を読む	60分		
⑤発達の理論について			発達の理論を読む	60分		
⑥発達段階と発達課題について			発達段階と発達課題を読む	60分		
⑦高齢者と健康について			高齢者と健康を読む	60分		
⑧身体的機能の成長と発達について			身体的機能の成長と発達を読む	60分		
⑨心理的機能の発達について			心理的機能の発達を読む	60分		
⑩社会的機能の発達について			社会的機能の発達を読む	60分		
⑪老年期の定義について			老年期の定義を読む	60分		
⑫老化とは			老化とはを読む	60分		
⑬老年期の発達課題について			老年期の発達課題を読む	60分		
⑭老年期をめぐる今日的課題について			老年期をめぐる今日的課題を読む	60分		
⑮まとめ			②~⑭ワークシートを読む	60分		
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座12「発達と老化の理解第2版」中 央法規出版 ISBN978-4-8401-0 C3036			その他参考文献など: 介護福祉士国家試験問題集			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 他の受講者の迷惑にならないように受講態度に気をつける。ゲームをしないこと。積極的に発言する。教員が入室したら、背中をみ せずに着席すること。社会人としてのマナーを実践すること。						

社会福祉学科

介護福祉

2 年

科目名: 認知症 I				担当教員 氏名: 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門必修科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:				キーワード		
認知症の人の体験や本人の声から認知症を理解し、さらに、認知症ケアの歴史や認知症の医学的理解、行動・心理的理解について学ぶ。				本人本位の視点 医学的理解 行動・心理症状 ユニットケア 中核症状		
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 5. 6. 7. 9		
A 知識・理解力	認知症の基礎的知識を身につけ介護にかかわる専門性を発揮する					
D 問題解決力	問題解決に必要な情報を収集・分析し、行動状況を考えることができる					
G 倫理観	尊厳を支えるケア、人権擁護の視点に立った倫理観を身につける					
H コミュニケーション力	他者に共感でき相手の立場を理解し相手の状況を考える姿勢を身につける					
成績評価の基準と方法: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %	レポート: 40 %	発表: 20 %	実技試験: %	その他: 20 %		
特記事項: 本科目は、アクティブラーニングを基本とする為、講義中に認知症高齢者との関わり方、より良いケアを学生間で議論する。その他の30%は、授業態度、各内容のグループワーク等の参加姿勢を評価します。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストやレポートの結果を本人に伝えます。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】①の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
②認知症の人の介護に向けての理解			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】②の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
③本人本位の視点を確かなものに			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】③の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
④認知症ケアの歴史			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】④の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑤認知症の人の体験			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑤の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑥認知症のケアの理念と視点			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑥の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑦認知症の人に対する介護の中間まとめ			【事後】①～⑦の復習する		【予習】30分 【復習】30分	
⑧認知症とは			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑧の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑨認知症の診断			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑨の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑩認知症の原因疾患と治療			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑩の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑪認知症の予防			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑪の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑫認知症の人の行動・心理症状			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑫の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑬認知症の人の心理的理解			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑬の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑭認知症についての事例を通して学ぶ			【事前】テキストを読んでくる。 【事後】⑭の復習する。		【予習】30分 【復習】30分	
⑮認知症についてのまとめ			【事後】⑧～⑮の復習する		【復習】30分	
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座13「認知症の理解第2版」中央法規出版 ISBN978-4-8058-5773-1 C3036				その他参考文献など: 介護福祉士国家試験問題集		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): この科目は「介護福祉士としての専門性」として期待される分野である。しっかりマスターしてください。						

社会福祉学科

2 年

科目名： 障害の理解 I				担当教員 氏名： 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門必修科目	講義	選択	介護福祉士受験資格(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
障害の概念、障害者福祉の理念から障害について基礎的に理解し、障害のある人の生活を捉える。					障害の概念 障害の理念 障害と生活	
授業科目の到達目標						
学習教育目標			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番)		2. 5. 6. 7. 9. 10	
A 知識・理解力		障害福祉の理念を理解し障害のある人について知識・技術を身につける				
B 専門的技術		障害のある人の社会参加や活動を理解し介護の専門性を高める				
F チームワーク・リーダーシップ		他職種の役割を理解し障害のある人の状況を考えることができる				
D 問題解決力		尊厳を支えるケアの視点に立ち社会福祉に生きる私になる				
H コミュニケーション力		他者に共感し相手の立場に立って考えるコミュニケーションができる				
成績評価の基準と方法： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 20 %		レポート： 40 %		発表： 20 %		実技試験： %
その他： 20 %						
特記事項： その他の10%は、授業態度、参加姿勢を評価します。 本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中に障害者との関わり方、より良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 第15回目に全体の振り返りを実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバック： テストや提出レポートにコメントを記載して返却します。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な 時間(分)
①オリエンテーション・障害の基礎的理解				【事前】障害の基礎を読んでくる。 【事後】①の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
②障害の概念				【事前】障害の概念を読んでくる。 【事後】②の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
③障害者福祉の基本理念				【事前】基本理念を読んでくる。 【事後】③の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
④視覚障害のある人の生活				【事前】視覚障害を読んでくる。 【事後】④の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑤聴覚・言語障害のある人の生活				【事前】聴覚・言語障害を読んでくる。 【事後】⑤の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑥重複障害のある人の生活				【事前】重複障害を読んでくる。 【事後】⑥の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑦肢体不自由(運動機能障害)のある人の生活				【事前】肢体不自由を読んでくる。 【事後】⑦の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑧内部障害のある人の生活				【事前】内部障害を読んでくる。 【事後】⑧の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑨知的障害のある人の生活				【事前】知的障害を読んでくる。 【事後】⑨の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑩精神障害のある人の生活				【事前】精神障害を読んでくる。 【事後】⑩の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑪高次脳機能障害のある人の生活				【事前】高次脳機能を読んでくる。 【事後】⑪の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑫発達障害のある人の生活				【事前】発達障害を読んでくる。 【事後】⑫の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑬重症心身障害のある人の生活				【事前】重症心身症を読んでくる。 【事後】⑬の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑭難病のある人の生活				【事前】難病を読んでくる。 【事後】⑭の復習する。		【予習】30分 【復習】30分
⑮障害のある人の生活の理解まとめ				【事後】①～⑭の復習する		【復習】30分
使用テキスト： 最新介護福祉士養成講座14『障害の理解』中央法規出版 ISBN978-4-8058-5773-1 C3036				その他参考文献など：		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： 障害のある人について理解を深めよう。						

社会福祉学科

介護福祉

2年

科目名: 医療的ケア基礎				担当教員 氏名: 宮城 和美		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	介護福祉士国家試験受験資格(必修)	
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①介護職員等による医療的ケアの実施に関する制度の概要についての知識を身につける。②医療的ケアの基礎: 全体の構造、医療行為実施の意識。感染予防、安全管理対策等についての基礎的知識を身につける。					医療的ケア 経管栄養 看護職との連携 感染対策 たんの吸引 安全・安楽	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		5. 6. 7. 9. 10		
A 知識・理解力	介護職員等による医療的ケアの実施に関する制度の概要についての知識を身につける。					
B 専門的技術	医療的ケアの基礎: 全体の構造、医療的行為実施を意識できる。					
C 論理的思考力	感染予防、安全管理対策等についての基礎的知識を身につける。					
F チームワーク・リーダーシップ	看護職員との連携・協力・報告の重要性を理解する。					
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 20 %	レポート: 40 %	発表: 20 %	実技試験: 20 %	その他: 20 %		
特記事項: 「その他」の20%は、授業態度、参加姿勢を評価します。本科目は、アクティブラーニングを基本とするため、講義中に、より良いケアについて、学生間で学び合い、論議し、レポート作成や発表を行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第9回目に中間のまとめをする。 第15回目にまとめをする。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 採点し返却します。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①ガイダンス			【予習】テキスト第1章第1節を読む 【復習】①復習	【予習】30分 【復習】30分		
②医療的ケアとは			【予習】医療的ケアとはテキストを読む 【復習】②復習	【予習】30分 【復習】30分		
③医療制度とチーム医療: 医療行為に関する法律、チーム医療と介護職との連携			【予習】医療制度などテキストを読む 【復習】③復習	【予習】30分 【復習】30分		
④安全な療養生活とは			【予習】テキスト第1章第2節を読む 【復習】④復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑤安全な療養生活を送るために: たんの吸引や経管栄養の安全な実施			【予習】安全な実施テキストを読む 【復習】⑤復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑥救急蘇生法とは			【予習】救急蘇生法テキストを読む 【復習】⑥復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑦救急蘇生法とは(演習)			【予習】救急蘇生法テキストを読む 【復習】⑦復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑧清潔保持と感染予防とは			【予習】テキスト第1章第3節を読む 【復習】⑧復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑨清潔保持と感染予防とは(演習)			【予習】感染予防テキストを読む 【復習】⑨復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑩健康状態の把握(バイタルサイン)			【予習】テキスト第1章第4節を読む 【復習】⑩復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑪健康状態の把握(バイタルサインの演習)			【予習】バイタルサインテキストを読む 【復習】⑪復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑫急変状態について			【予習】急変状態とはテキストを読む 【復習】⑫復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑬呼吸のしくみとはたらき(いつもと違う呼吸状態とは)			【予習】呼吸についてテキストを読む 【復習】⑬復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑭消化器系のしくみとはたらき、消化・吸収とよくある消化器の症状			【予習】消化器系テキストを読む 【復習】⑭復習	【予習】30分 【復習】30分		
⑮医療的ケア基礎のまとめ			【予習】⑩～⑭の復習をする	【予習】30分		
使用テキスト: 最新介護福祉士養成講座15「医療的ケア第2版」 中央法規出版 ICBN978-4-8058-8404-1 C3036				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 適宜資料を配布しますので、各自整理・保管をしてください。						

社会福祉学科

科目名: 介護総合演習Ⅱ			担当教員 氏名: 長井 賢希						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	介護福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			介護過程の展開のプロセスのうち、介護計画立案までを行う介護実習Ⅱの事前事後学習科目である。介護福祉現場にて従事経験のある教員が、その経験を活かして実習指導を展開する。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
本科目は、個別性を重視した介護計画の立案・利用者の心身の状況に応じた生活支援技術の実践を目標とした介護実習Ⅱの事前・事後指導科目です。介護過程Ⅱにおける演習資料も活用します。					ICF 介護過程 レクリエーション				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		2, 3, 4, 5, 6, 7, 8, 9				
A 知識・理解力			個別ニーズに応じた介護計画を組み立てることができる						
B 専門的技術			個別ニーズに応じた生活支援技術の実践力を養う						
C 論理的思考力			個別ニーズを情報の解釈において理解し、計画に反映する						
F チームワーク・リーダーシップ			同職種・他職種との連携のあり方を学ぶことができる						
H コミュニケーション力			利用者の特性に応じたコミュニケーションを図ることができる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	50 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: その他の50%は授業態度や取り組みの姿勢、実習記録ファイル等の提出を評価します。また、実習終了後の報告会に関する評価も含まれます。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習直前に事前打ち合わせ報告会、実習直後に事後報告会を巡回教員単位で実施します。また、全体で実習報告会を行います。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートや演習シートにコメントしフィードバックします。									
使用テキスト: 最新 介護福祉士養成講座10「介護総合演習・介護実習」第2版 ISBN978-4-8058-8399-0 中央法規出版				その他参考文献など: ICF国際生活機能分類 - 国際障害分類改定版「単行本」 障害者福祉研究会(編集)					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習に向けての重要な科目です。積極的に取り組んでください。									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
回数									
1	介護実習Ⅰの振り返り				実習ファイルを振り返る	【予習】30分			
2	介護実習Ⅰ記録の振り返り				実習ファイルを振り返る	【復習】30分			
3	介護実習記録2の修正				実習ファイルを振り返る	【復習】30分			
4	介護実習記録2 考察と振り返りと修正				実習ファイルを振り返る	【復習】30分			
5	利用者の全体像をとらえること				実習ファイルを振り返る	【復習】30分			

※前ページよりつづき

社会福祉学科

科目名： 介護総合演習Ⅱ		担当教員 氏名： 長井 賢希	
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	安全に配慮したレクリエーション	配布資料を読む	【復習】30分
7	活動と参加を意識したレクリエーション	企画書の記入	【復習】30分
8	個人因子を意識したレクリエーション	企画書の修正	【復習】30分
9	情報収集の方法	介護過程Ⅱの資料の振り返り	【復習】30分
10	情報の理解とICFの復習	国際生活機能分類を読む	【復習】30分
11	情報収集用紙への記入演習	介護過程Ⅱの資料の振り返り	【復習】30分
12	アセスメントの演習 ニーズ	介護過程Ⅱの資料の振り返り	【復習】30分
13	アセスメントの演習 課題の明確化	介護過程Ⅱの資料の振り返り	【復習】30分
14	アセスメントの演習 課題達成に向けた確認事項	介護過程Ⅱの資料の振り返り	【復習】30分
15	目標化の演習	介護過程Ⅱの資料の振り返り	【復習】30分
16	個別性や尊厳を遵守した介護計画	介護過程Ⅱの演習シートの振り返り	【復習】30分
17	個別性や尊厳を遵守した介護計画の演習	介護過程Ⅱの演習シートの振り返り	【復習】30分
18	事前打ち合わせ訪問に向けて	施設の概要を調べる	【復習】30分
19	事前打ち合わせ訪問に向けての準備	施設の概要を調べる	【復習】30分
20	事前訪問記録の記入	実習に向けての目標や実習内容についての振り返り	【復習】30分
21	個別性や尊厳を遵守した介護計画の演習の振り返り	演習シートや記録を振り返る	【復習】30分
22	個別性や尊厳を遵守した介護計画の演習 事例2	演習シートや記録を振り返る	【復習】30分
23	個別性や尊厳を遵守した介護計画の演習の振り返り	演習シートや記録を振り返る	【復習】30分
24	事前打ち合わせ報告会	打ち合わせ報告	【復習】30分
25	特別講義	介護過程の展開の振り返りや実習態度についての確認	【復習】30分
26	直前オリエンテーション	実習準備の最終確認	【復習】30分
27	事後報告会	実習ファイルを振り返る	【復習】30分
28	報告書の作成	実習ファイルを振り返る	【復習】30分
29	報告会	実習ファイルを振り返る	【復習】30分
30	演習ファイルの確認と提出	実習ファイルを振り返る	【復習】30分

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ				担当教員 氏名: 宮嶋 潔		
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	社会福祉士受験資格(必修) 福祉心理士
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士、精神保健福祉士等の資格を有した教員が、相談等の実務経験を生かして授業を行う。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード	
ソーシャルワークの価値やチームアプローチを基礎にマイクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの展開を学ぶ。					マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク 多職種連携、ジェネラリスト・ソーシャルワーク	
授業における学修の到達目標						
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9.	
A 知識・理解力		各領域のソーシャルワーカーの役割り等を理解する。				
B 専門的技術		クライアントを多角的に支援するための多職種連携の基本的技術を身につける。				
C 論理的思考力		マイクロ、メゾ、マクロレベルごとにクライアントシステムを階層的に理解する。				
D 問題解決力		事例等から多職種連携の力を使ったクライアントの問題解決の力を身につける。				
G 倫理観		ソーシャルワークの根底にある専門職倫理を常に意識し実践力を身につける。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %	レポート: 20 %	発表: %	実技試験: %	その他: 30 %		
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワークを行う。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半にまとめと振り返りを予定している。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: テストやレポート返却時のコメント等によってアドバイスを行う。						
授 業 計 画				準備学修(予習・復習等)		
				学修内容	学修に必要な 時間(分)	
①ソーシャルワーク専門職の概念と範囲				【事前】①当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
②社会福祉士の職域(行政、福祉、医療、教育、司法、独立型事務所等)				【事前】②当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
③福祉行政などにおける専門職(福祉事務所の現業員、査察指導員、社会福祉主事等)				【事前】③当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
④民間の施設・組織における専門職(社会福祉協議会、高齢者関連施設、障害者・児童関連施設、児童関連施設、地域包括支援センター、病院等)				【事前】④当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑤諸外国の動向(欧米等の動向)				【事前】⑤当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑥マイクロ・メゾ・マクロレベルのソーシャルワーク(対象、介入方法等)				【事前】⑥当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑦ジェネラリスト・ソーシャルワークⅠ(定義、歴史的背景)				【事前】⑦当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑧ジェネラリスト・ソーシャルワークⅡ(展開方法、社会資源の活用方法)				【事前】⑧当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑨ソーシャルサポート・ネットワーク(定義、展開方法)				【事前】⑨当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑩多職種連携の意義Ⅰ(多職種連携の定義等)				【事前】⑩当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑪多職種連携の意義Ⅱ(多職種連携の方法、チームアプローチの種類)				【事前】⑪当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑫事例分析(8050問題)				【事前】⑫当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑬事例分析(生活困窮者)				【事前】⑬当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑭事例分析(終末期患者)				【事前】⑭当該ページを読む 【事後】授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
⑮まとめ				【事前】今までの授業の復習	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新社会福祉士養成講座 精神保健福祉士養成講座11 ソーシャルワークの基盤と専門職(共通・社会専門)」中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8241-2 C3036				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): ソーシャルワークの基本的な内容となります。予習・復習をしっかりと行ってください。						

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク演習(専門) I		担当教員 氏名: 鷹西 恒			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。			
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
地域共生社会の実現に向けて複合化・複雑化した課題を受け止める多機関の協働による総合的かつ包括的な支援体制について実践的に理解する。					地域課題、エンゲージメント、アセスメント、プランニング、モニタリング、評価、アフターケア
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標		1. 2. 5. 6. 8. 10	
A 知識・理解力	ソーシャルワークに必要な実践的な知識と技術を養う。				
C 論理的思考力	利用者の抱える問題を、客観的かつ複眼的論理的に分析できる。				
D 問題解決力	適切な支援方法を用いて幾つかの解決策を考えることができる。				
G 倫理観	ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。				
H コミュニケーション力	ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他は授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。 アクティブラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。 アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
②社会福祉士に求められる役割			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
③言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションの活用方法 I			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
④言語コミュニケーション・非言語コミュニケーションの活用方法 II			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑤ケースの発見とエンゲージメント			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑥アセスメント I			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑦アセスメント II			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑧プランニング I			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑨プランニング II			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑩支援の実施とモニタリング I			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑪支援の実施とモニタリング II			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑫支援の終結と結果評価・アフターケア I			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑬支援の終結と結果評価・アフターケア II			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑭事例演習(ロールプレイ) I			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑮事例演習(ロールプレイ) II			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[社会専門](中央法規)ISBN: 978-4-8058-8250-4			その他参考文献など: 社会保障制度活用ガイド 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。					

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ		担当教員 氏名: 鷹西 恒			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
複合的な生活課題を抱えるクライアントに対して、複眼的な視点でソーシャルワークが展開できるようマイクロ・メゾ・マクロの視点を用いながら実践的なソーシャルワークの展開過程を理解する。					地域課題、生活課題、アディクション、虐待、レジリエンス、エンパワメント
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標	1. 2. 5. 6. 8. 10	
A 知識・理解力	ソーシャルワークに必要な実践的な知識と技術を養う。				
C 論理的思考力	利用者の抱える問題を、客観的かつ複眼的論理的に分析できる。				
D 問題解決力	適切な支援方法を用いて幾つかの解決策を考えることができる。				
G 倫理観	ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。				
H コミュニケーション力	ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他は授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。 アクティブ・ラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。 アクティブ・ラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
②事例演習の目的			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
③事例演習(虐待・高齢者)Ⅰ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
④事例演習(虐待・高齢者)Ⅱ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑤事例演習(虐待・児童)Ⅰ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑥事例演習(虐待・児童)Ⅱ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑦事例演習(虐待・障害者)Ⅰ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑧事例演習(虐待・障害者)Ⅱ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑨事例演習(ひきこもり)Ⅰ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑩事例演習(ひきこもり)Ⅱ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑪事例演習(終末期ケア)Ⅰ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑫事例演習(終末期ケア)Ⅱ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑬事例演習(依存症)Ⅰ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑭事例演習(依存症)Ⅱ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑮事例演習(災害)			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[社会専門](中央法規)ISBN: 978-4-8058-8250-4			その他参考文献など: 社会保障制度活用ガイド 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。					

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク演習(専門)Ⅲ		担当教員 氏名: 鷹西 恒			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
1	2年次 前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 社会福祉士・精神保健福祉士としての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
支援を必要とする人を中心とした分野横断的な総合的かつ包括的な支援について実践的に理解する。また、地域の特性や課題を把握し解決するための、地域アセスメントや評価等の仕組みや、ミクロ・メゾ・マクロレベルにおけるソーシャルワークの対象と展開過程を実践的に理解する。					地域課題、地域アセスメント、ニーズ把握、地域福祉の計画、組織化、社会資源、ミクロ・メゾ・マクロ
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標		1. 2. 5. 6. 8. 10	
A 知識・理解力	ソーシャルワークに必要な知識と技術を、理論化し体系立てることができる。				
C 論理的思考力	利用者の抱える問題を、複眼的論理的に分析できる。				
D 問題解決力	適切な支援方法を用いて解決策を考えることができる。				
G 倫理観	ソーシャルワーカーの価値規範を理解し論理的判断能力を養う。				
H コミュニケーション力	ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: %	レポート: 40 %	発表: 40 %	実技試験: %	その他: 20 %	
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価する。原則的に100%の出席を求める。その他は授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。 アクティブ・ラーニングの一環としてグループワークや発表を行う。 アクティブ・ラーニング要素: 課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①オリエンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
②地域の特性の理解			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
③地域アセスメント			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
④地域のニーズの把握			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑤地域福祉の計画、プレゼンテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑥社会資源の活用・調整・開発			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑦サービスの評価			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑧アウトリーチ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑨チームアプローチ			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑩ネットワーキング			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑪コーディネーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑫ネゴシエーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑬ファシリテーション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑭ソーシャルアクション			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
⑮授業のまとめと振り返り			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分	
使用テキスト: 最新社会福祉士養成講座7ソーシャルワーク演習[社会専門](中央法規)ISBN: 978-4-8058-8250-4			その他参考文献など: 社会保障制度活用ガイド 福祉小六法 現代社会福祉用語の基礎知識		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。					

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク実習指導 I				担当教員 氏名: 鷹西 恒					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	社会福祉士受験資格(必須)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 相談援助実習に向けて、各領域のソーシャルワークの特徴を踏まえた授業を行う									
授業科目の学修教育目標の概要:						キーワード			
ソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し、ソーシャルワーク機能を発揮するための基礎的な能力を習得する。実習を振り返り、実習で得た具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる総合的な能力を涵養する。						ソーシャルワーク 知識と技術 スーパービジョン			
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福祉マトリックスで示される番号)		1. 2. 5. 6. 8. 9. 10				
A 知識・理解力			実習する分野についての知識と実習施設についての理解をすることができる。						
B 専門的技術			実習する分野における当事者理解や援助技術を進めることができる。						
E 自己管理能力			実習に関する提出物や施設への調整連絡などの実習業務管理ができる。						
G 倫理観			実習現場に置いてソーシャルワークの価値と倫理に従って行動できる。						
H コミュニケーション力			実習における利用者や施設職員や実習指導者と適切なコミュニケーションを実践できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 上記「その他」においては、授業中の態度などで評価する。 本科目ではアクティブ・ラーニングの一環としてグループワーク、プレゼンテーションを行う。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 実習終了後に実習報告書を提出し、実習の報告会を行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けてレポートを返却する。									
使用テキスト: 最新社会福祉養成講座 8ソーシャルワーク実習指導ソーシャルワーク実習[社会専門]、中央法規、ISBN: 978-4-8058-8251-1				その他参考文献など: 福祉小六法、中央法規、現代社会福祉用語の基礎知識 学文社					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 原則として全授業に出席すること。実習終了後の実習報告レポートを締め切りを守って提出をしなければ、本単位は認定されないで、十分な覚悟の上履修してほしい。									
授 業 計 画						準備学修(予習・復習等)			
						学修内容	学修に必要な時間(分)		
回数									
1	オリエンテーション(現場実習・実習指導の位置づけ)					【事前】序章の講義-演習-実習の循環の1、2読む 【事後】序章の講義-演習-実習の循環の1、2をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分		
2	実習の目的や動機の萌芽(グループワーク)					【事前】序章の講義-演習-実習の循環の3、4読む 【事後】序章の講義-演習-実習の循環の3、4をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分		
3	実習施設・機関の例・概要I(高齢者施設)					【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習	【予習】60分		
4	実習施設・機関の例・概要II(高齢者施設)					【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習	【予習】60分		
5	実習施設・機関の例・概要III(障害者施設、児童福祉施設)					【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む	【予習】60分 【復習】60分		

※前ページよりつづき 社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク実習指導 I		担当教員 氏名: 鷹西 恒	
授 業 計 画		準備学修(予習・復習等)	
		学修内容	学修に必要な時間(分)
6	実習施設・機関の例・概要II(障害者施設、児童福祉施設)	【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
7	実習施設・機関の例・概要III(社会福祉協議会、福祉事務所)	【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
8	実習施設・機関の例・概要III(社会福祉協議会、福祉事務所)	【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
9	実習施設・機関の例・概要IV(病院、地域包括支援センター等)	【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
10	実習施設・機関の例・概要IV(病院、地域包括支援センター等)	【事前】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解を読む 【事後】第2章の第3節ソーシャルワーク実習の分野と施設・機関の理解をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
11	実習配属先(施設・事業所等)に関する基本的な理解と実習計画書の作成(三者面談)	【事前】第3章実習決定後の準備の第1、2節を読む 【事後】第3章実習決定後の準備の第1、2節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
12	実習配属先(施設・事業所等)に関する基本的な理解と実習計画書の作成II(面談指導)	【事前】第3章実習決定後の準備の第3節を読む 【事後】第3章実習決定後の準備の第3節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
13	実習記録(日誌)の書き方及び方法の理解	【事前】第2章実習先決定に向けた準備の第2節を読む 【事後】第2章実習先決定に向けた準備の第2節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
14	実習配属先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する理解	【事前】第6章実習の実際の第11節を読む 【事後】第6章実習の実際の第11節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
15	実習における個人のプライバシー保護、守秘義務及び倫理	【事前】第4章実習中の学習の第4節を読む 【事後】第4章実習中の学習の第4節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
16	実習における注意事項と留意点	【事前】第4章の実習中の学習の第3節を読む 【事後】第4章の実習中の学習の第3節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
17	巡回指導 I	【事前】第4章の実習中の学習の第1節を読む 【事後】第4章の実習中の学習の第1節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
18	巡回指導 II	【事前】第4章の実習中の学習の第1節を読む 【事後】第4章の実習中の学習の第1節をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
19	実習課題の整理とスーパービジョン I	【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
20	実習課題の整理とスーパービジョン II	【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
21	実習課題の整理とスーパービジョン III	【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
22	実習課題の整理とスーパービジョン IV	【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
23	実習課題の整理とスーパービジョン V	【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
24	実習課題の整理とスーパービジョン VI	【事前】第4章の実習中の学習を読む 【事後】第4章の実習中の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
25	実習課題の整理と実習報告書の作成 I	【事前】第5章の実習後の学習を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
26	実習課題の整理と実習報告書の作成 II	【事前】第5章の実習後の学習を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
27	実習課題の整理と実習報告書の作成 II	【事前】第5章の実習後の学習を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
28	実習後の学習 I	【事前】第5章の実習後の学習を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
29	実習後の学習 II	【事前】第5章の実習後の学習を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分
30	実習後の学習 III	【事前】第5章の実習後の学習を読む 【事後】第5章の実習後の学習をノートにまとめる	【予習】60分 【復習】60分

社会福祉学科

科目名: 精神医学と精神医療 I			担当教員 氏名: 木戸 幹雄			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	精神保健福祉士受験資格(必修) 介護福祉士受験資格(選択)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 精神科医師としての実務経験を活かして、精神医学と精神医療について教授する。						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
①精神疾患の分類を把握するとともに、主な疾患の症状、経過、治療方法などについて理解する。 ②精神医療と人権擁護の歴史を学ぶとともに、精神保健福祉法における精神科病院の入院形態や医療観察法について理解し、その中で精神保健福祉士の役割と法制度の課題を理解する。 ③精神科病院等においてチーム医療の一員としての精神保健福祉士の役割を理解する。 ④早期介入、再発予防や地域生活の支援等における地域の多職種連携・多機関連携における精神保健福祉士の役割について理解する。					精神医学・精神医療、精神保健福祉士	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6	
A 知識・理解力			精神医学と精神医療について理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。			
C 論理的思考力			精神医学と精神医療に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
G 倫理観			精神医学と精神医療に必要な倫理を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 60 %		レポート: %		発表: %		実技試験: %
その他: 40 %						
特記事項: 「その他:40%」では、授業態度について評価する。						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容		学習に必要な時間(分)	
①精神医学・医療の歴史			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】①の復習		【予習】30分 【復習】30分	
②精神現象の生物学的基礎			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】②の復習		【予習】30分 【復習】30分	
③精神障害の概念			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】③の復習		【予習】30分 【復習】30分	
④精神疾患の診断分類			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】④の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑤精神疾患の診断～診断手順と方法～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑤の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑥精神疾患の検査～心理検査と理化学的検査～・中間まとめ			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑥の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑦代表的な疾患とその症状、経過、予後①～認知症～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑦の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑧代表的な疾患とその症状、経過、予後②～てんかん～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑧の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑨代表的な疾患とその症状、経過、予後③～依存症～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑨の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑩代表的な疾患とその症状、経過、予後④～統合失調症～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑩の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑪代表的な疾患とその症状、経過、予後⑤～気分(感情)障害～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑪の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑫代表的な疾患とその症状、経過、予後⑥～不安障害～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑫の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑬代表的な疾患とその症状、経過、予後⑦～神経症性障害、ストレス関連障害～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑬の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑭代表的な疾患とその症状、経過、予後⑧～摂食障害、発達障害～			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑭の復習		【予習】30分 【復習】30分	
⑮まとめ、テスト			【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑮の復習		【予習】30分 【復習】30分	
使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 「最新 精神保健福祉士養成講座1 精神医学と精神医療」 中法規出版 ISBN:978-4-8058-8252-8 C3036			その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):						

社会福祉学科

科目名: 現代の精神保健の課題と支援 I			担当教員 氏名: 森田 頼子			
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	精神保健福祉士受験資格(必修) 介護福祉士受験資格(選択)
実務経験を用いてどのよ 様々な精神疾患及びDV、虐待、不登校、ひきこもり等現代の精神保健の課題とその支援について、専門機 うな授業を行っているか: 関で培った経験を活かしてわかりやすく解説し、事例検討を通してメンタルヘルスリテラシーを高める。						
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード
①現代の精神保健分野の動向と課題を理解する。 ②精神保健の基本的考え方を理解する。 ③現代社会における精神保健の諸課題の実際を生活環境ごとに理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健の保持・増進と発生予防のための支援及び専門機関や関係職種との役割と連携について理解する。 ⑤国際連合の精神保健活動や他の国々における精神保健の現状と対策について理解する。						精神保健・発生予防、精神保健福祉士
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 9	
A 知識・理解力			精神保健について理解し、精神保健福祉士の役割について理解する。			
C 論理的思考力			精神保健に関する知識を複眼的、論理的に分析し、表現できる。			
G 倫理観			精神保健に必要な倫理を理解する。			
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト: 50 %		レポート: 30 %		発表: %		実技試験: %
その他: 20 %						
特記事項:「その他:20%」では、授業態度について評価する。						
アクティブラーニング要素:						
課題解決型学修 ディスカッション、ディベート <u>グループワーク</u> プレゼンテーション 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期:別に定めた日時に実施する。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:評価を付けて学生に返却する。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容		学習に必要な時間(分)
①現代の精神保健分野の動向				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】①の復習		【予習】30分 【復習】30分
②現代の精神保健分野の基本的考え方				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】②の復習		【予習】30分 【復習】30分
③家族に関連する精神保健の課題と支援①～出産・育児・介護～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】③の復習		【予習】30分 【復習】30分
④家族に関連する精神保健の課題と支援②～家族関係・DV・社会的引きこもり～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】④の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑤家族に関連する精神保健の課題と支援③～グリーフケアと支援機関～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑤の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑥精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ①～学校教育における精神保健的課題～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑥の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑦精神保健の視点から見た学校教育の課題とアプローチ②～専門職・関係法規と社会資源～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑦の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑧精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ①～現代社会の労働環境と産業精神保健～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑧の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑨精神保健の視点から見た勤労者の課題とアプローチ②～職場のメンタルヘルス・支援機関と関係法規～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑨の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑩精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ①～災害被災者・犯罪被害者～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑩の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑪精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ②～自殺予防～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑪の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑫精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ③～身体疾患に伴う精神保健～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑫の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑬精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ④～貧困問題・社会的孤立～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑬の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑭精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑤～LGBT・異文化ストレス～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑭の復習		【予習】30分 【復習】30分
⑮精神保健の視点から見た現代社会の課題とアプローチ⑥～反復違反行為～				【予習】テキストの該当箇所を読む 【復習】⑮の復習		【予習】30分 【復習】30分
使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座2 現代の精神保健の課題と支援」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8253-3 C3036				その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する。		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 現代の精神保健の課題について関心を持ち、その問題はどのようにして起きたのか、どんな支援が必要か等、様々な視点から考察する習慣を身につけていただきたい。						

社会福祉学科

科目名： 精神保健福祉の原理 I		担当教員 氏名： 山本 純子				
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	精神保健福祉士受験資格(必修) 介護福祉士受験資格(選択)	
実務経験を用いてどのよ 精神障害者が医療福祉の歴史の変遷のなかでどのような社会的立場に置かれてきたかを知り、「精神障害や障害のうな授業を行っているか： ある人の捉え方」、「生活のしづらさ」について学び、問題意識を高める授業を展開する。						
授業科目の学習教育目標の概要：					キーワード	
①「障害者」に対する思想や障害者の社会的立場の変遷から、障害者福祉の基本的枠組み(理念・視点・関係性)について理解する。 ②精神保健福祉士が対象とする「精神障害者」の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について学ぶ。 ③精神疾患や精神障害をもつ当事者の社会的立場や処遇内容の変遷をふまえ、それに対する問題意識をもつ価値観を体得する。 ④精神障害者へのかかわりについて、精神医学ソーシャルワーカーが構築してきた固有の価値を学び、精神保健福祉士の存在意義を理解して職業的アイデンティティの基礎を築く。 ⑤精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)と倫理綱領に基づく職責について理解する。 ⑥精神保健福祉士を規定する法律と倫理綱領を把握し、求められる機能や役割を理解する。 ⑦近年の精神保健福祉の動向を踏まえ、精神保健福祉士の職域と業務特性を理解できる					精神障害者の定義 障害特性 排除と社会的障壁	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)			
			1. ②. ③. ⑤. ⑥. ⑦. 9			
A 知識・理解力	精神保健福祉士の基本的枠組み(理念・視点・関係性)や求められる機能、役割を理解できる					
B 専門的技術	精神障害者の定義とその障害特性を構造的に理解するとともに、精神障害者の生活実態について理解できる					
C 論理的思考力	精神障害者の社会的立場や処遇内容の変遷を踏まえ、それに対する問題意識を持つ価値観を体得できる					
D 問題解決力	精神障害者が直面する生活問題をその障害特性と社会構造から理解し、支援のあり方について考えることができる					
G 倫理観	精神障害者が社会的排除の対象とされてきた歴史を学び、差別や偏見の除去に向き合う精神保健福祉士の志向性を培うことができる					
成績評価の方法・基準： 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする						
テスト： 50 %	レポート： 40 %	発表： %	実技試験： %	その他： 10 %		
特記事項： 上記「その他」においては、授業出席、授業中の態度、課題の提出状況などで評価する。						
アクティブラーニング要素：						
課題解決型学修 <u>ディスカッション、ディベート</u> <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期： 講義の中間・後半でまとめと振り返りを予定している						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法： レポート・試験問題解答用紙の返却時のコメントや解説等でアドバイスを行う						
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)			
			学習内容	学習に必要な時間(分)		
①障害者福祉の思想と原理Ⅰ～優生思想と社会防衛思想～			【事前】1章理念と歴史的展開第1節を読む 【事後】1章理念と歴史的展開をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
②障害者福祉の思想と原理Ⅱ～基本的人権の保障・社会正義の実現～			【事前】1章理念と歴史的展開第1節を読む 【事後】1章理念と歴史的展開をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
③障害者福祉の理念Ⅰ～リハビリテーション・ノーマライゼーション～			【事前】1章理念と歴史的展開第1節を読む 【事後】1章理念と歴史的展開をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
④障害者福祉の理念Ⅱ～エンパワメント・インクルージョン～			【事前】1章理念と歴史的展開第1節を読む 【事後】1章理念と歴史的展開をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑤障害者福祉の歴史的展開Ⅰ～基本的人権の保障・自立支援～			【事前】1章理念と歴史的展開第2節を読む 【事後】1章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑥障害者福祉の歴史的展開Ⅱ～消費者としての権利保障～			【事前】1章理念と歴史的展開第2節を読む 【事後】1章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑦「障害」の概念～国際生活機能分類(ICF)～			【事前】2章「概念」第2節を読む 【事後】2章「概念」第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑧制度における「精神障害者」の定義			【事前】2章「概念」第1節を読む 【事後】2章「概念」第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑨精神障害の障害特性～蜂矢モデル・ICFモデル・上田敏モデル～			【事前】2章「概念」第3節を読む 【事後】2章「概念」第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑩社会的排除と社会的障壁Ⅰ～諸外国の動向～			【事前】3章「歴史と構造」第1節を読む 【事後】3章「歴史と構造」第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑪社会的排除と社会的障壁Ⅱ～相馬事件・ライシャワー事件～			【事前】3章「歴史と構造」第2節を読む 【事後】3章「歴史と構造」第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑫社会的排除と社会的障壁Ⅲ～宇都宮病院事件・大和川病院事件～			【事前】3章「歴史と構造」第2節を読む 【事後】3章「歴史と構造」第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑬社会的排除と社会的障壁Ⅳ～池田小学校事件・相模原事件～			【事前】3章「歴史と構造」第2節を読む 【事後】3章「歴史と構造」第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
⑭日本の社会的障壁Ⅰ～欠格条項・強制不妊手術～			【事前】1章から3章・資料をまとめる	【予習】240分		
⑮日本の社会的障壁Ⅱ～コンフリクトの種類とレベル～			【事前】3章「歴史と構造」第3節を読む 【事後】3章「歴史と構造」第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分		
使用テキスト： 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集 「最新精神保健福祉士養成講座5 精神保健福祉の原理(中央法規)」 ISBN978-4-8058-8256-6			その他参考文献など： 授業の中で適宜紹介する			
受講上の留意点(担当者からのメッセージ)： ・配布する資料等は紛失しないように注意してください						

社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワークの理論と方法(専門) I		担当教員 氏名: 山本 純子			
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考
2	2年次 前期	専門科目	講義	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 精神保健福祉士の実務経験を活かし、事例分析やロールプレイを用いて、ソーシャルワークアプローチの活用方法についての授業を行う。					
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード
①精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人に対するソーシャルワークの過程を理解する。 ②精神障害及び精神保健福祉の課題を持つ人と家族の関係を理解し、家族への支援方法を理解する。 ③精神医療、精神障害者福祉における多職種連携・多機関連携の方法と精神保健福祉士の役割について理解する。 ④精神保健福祉士と所属機関の関係を踏まえ、組織運営管理、組織介入・組織活動の展開に関する概念と方法について理解する。 ⑤個別支援からソーシャルアクションへの実践展開をマイクロ・メゾ・マクロの連続性・重層性を踏まえて理解する。 ⑥精神保健福祉分野以外における精神保健福祉士の実践展開を理解する。					ソーシャルワーク ケアマネジメント 援助関係 家族支援
授業における学修の到達目標					
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. ② ③ ⑤ ⑥ 7. 9	
A 知識・理解力	精神障害者に対するソーシャルワークの理論と方法を理解することができる				
B 専門的技術	精神障害者本人や環境のアセスメントをしたり支援計画を作成する技術を身につけることができる				
C 論理的思考力	疾病や障害の状況から生活レベルを想定することで支援の論理性を培うことができる				
D 問題解決力	理論やソーシャルワークの実践過程を理解することで問題を解決する力を身につけることができる				
G 倫理観	援助に必要な倫理について考察することができる				
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする					
テスト: 50 %	レポート: 40 %	発表: %	実技試験: %	その他: 10 %	
特記事項: 上記「その他」においては、授業出席、授業中の態度、課題の提出状況などで評価する。					
アクティブラーニング要素:					
課題解決型学修 (ディスカッション、ディベート) (グループワーク) (プレゼンテーション) 実習、フィールドワーク					
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 講義の中間・後半で、日時を指定し、実施する					
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポート・試験問題解答用紙の返却時のコメントや解説等でアドバイスを行う					
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)		
			学習内容	学習に必要な時間(分)	
①ソーシャルワークの構成要素			【事前】第1章ソーシャルワークの概要第1節を読む 【事後】第1章第1節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
②ソーシャルワークの展開過程			【事前】第1章ソーシャルワークの概要第2節を読む 【事後】第1章第2節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
③精神保健福祉分野のソーシャルワークの基本的視点			【事前】第1章ソーシャルワークの概要第3節を読む 【事後】第1章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
④精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅰ～アウトリーチ・インテーク～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第2・6節を読む 【事後】第2章第2・6節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑤精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅱ～アセスメント～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第3節を読む 【事後】第2章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑥精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅲ～援助関係の形成技法～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第3節を読む 【事後】第1章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑦精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅳ～面接技術とその応用～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第4節を読む 【事後】第2章第4節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑧精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅴ～支援の展開①エコロジカルアプローチ～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第7節を読む 【事後】第2章第7節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑨精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅵ～支援の展開②エンパワメントアプローチ～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第7節を読む 【事後】第2章第7節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑩精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅶ～支援の展開③ケアマネジメント～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第8節を読む 【事後】第2章第8節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑪精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅷ～支援の展開④～ケアマネジメントの実際(ストレンジモデル)～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第8節を読む 【事後】第2章第8節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑫精神保健福祉分野におけるソーシャルワークの過程Ⅸ～支援の展開④～ケアマネジメントの実際(障害者総合支援法)～			【事前】第2章ソーシャルワークの展開技法第8節を読む 【事後】第2章第8節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑬精神保健福祉分野における家族支援の実際Ⅰ～精神障害者家族の課題～			【事前】第3章家族支援の実際第1節を読む 【事後】第3章第1せつをまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
⑭精神保健福祉分野における家族支援の実際Ⅱ～家族理解の変遷～			【事前】第1章から3章・資料をまとめる 【事後】第3章第2節をまとめる	【予習】210分 【復習】30分	
⑮精神保健福祉分野における家族支援の実際Ⅲ～家族支援の方法～			【事前】第3章第3節を読む 【事後】第3章第3節をまとめる	【予習】120分 【復習】120分	
使用テキスト: 一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座6 ソーシャルワークの理論と方法(精神専門)」第2版 中央法規出版ISBN978-4-8058-8257-3			その他参考文献など: 授業の中で適宜紹介する		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 配布する資料や事例等は紛失しないように注意してください					

社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワーク演習(専門) I			担当教員 氏名: 松尾 祐子						
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
精神疾患や精神障害、精神保健の課題のある人の状況や困難、また希望を的確に聞き取り、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。					ソーシャルワーク、職業倫理、メンタルヘルス、アセスメント、ソーシャルワークの展開過程				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9					
A 知識・理解力		ソーシャルワークに必要な知識と技術を理解する。							
C 論理的思考力		当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析できる。							
E 自己管理能力		常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。							
G 倫理観		ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。							
H コミュニケーション力		ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価し、その他とは授業態度・姿勢のことである。アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画			準備学習(予習・復習等)						
			学習内容	学習に必要な時間(分)					
①精神保健福祉士の演習の意義と目的			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
②精神保健福祉士の職業倫理			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
③ソーシャルワークの過程を通じた援助①～ケースの発見とインテーク～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
④ソーシャルワークの過程を通じた援助②～アセスメント①～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑤ソーシャルワークの過程を通じた援助③～アセスメント②～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑥ソーシャルワークの過程を通じた援助④～アセスメント③～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑦ソーシャルワークの過程を通じた援助⑤～プランニング①～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑧ソーシャルワークの過程を通じた援助⑥～プランニング②～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑨ソーシャルワークの過程を通じた援助⑦～プランニング③～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑩ソーシャルワークの過程を通じた援助⑧～支援の実施①～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑪ソーシャルワークの過程を通じた援助⑨～支援の実施②～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑫ソーシャルワークの過程を通じた援助⑩～支援の実施③～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑬ソーシャルワークの過程を通じた援助⑪～モニタリング～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑭ソーシャルワークの過程を通じた援助⑫～支援の終結と事後評価～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
⑮ソーシャルワークの過程を通じた援助⑬～アフターケア～			【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分					
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8258-0 C3036			その他参考文献など: 授業の中で紹介する。						
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワーク演習(専門)Ⅱ				担当教員 氏名: 松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
精神障害の課題のある人の状況や困難、とりまく状況や環境を含めて理解してソーシャルワークを展開するための精神保健福祉士の専門性(知識、技術、価値)の基礎を獲得する。 諸制度やサービスの利用要件や手続きを知り援助に活用できるようになる。					社会的排除、退院支援、地域支援、ひきこもり、自殺対策、児童家庭支援、就労支援、貧困支援				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9				
A 知識・理解力			ソーシャルワークに必要な知識と技術を理解する。						
C 論理的思考力			当事者が直面する問題を複眼的論理的に分析できる。						
E 自己管理能力			常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。						
G 倫理観			ソーシャルワークの価値規範と倫理を実践的に理解できる。						
H コミュニケーション力			ソーシャルワークの実践に必要なコミュニケーション能力を養う。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価し、その他とは授業態度・姿勢のことである。 アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
①精神ソーシャルワークの領域と課題					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
②事例学習①～社会的排除、社会的孤立～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
③事例学習②～受診・受療、課題発見～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
④事例学習③～退院支援、地域移行支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑤事例学習④～地域生活支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑥事例学習⑤～自殺対策～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑦事例学習⑥～ひきこもり支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑧事例学習⑦～児童虐待への対応～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑨事例学習⑧～アルコール依存、薬物依存、ギャンブル依存等の予防や回復～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑩事例学習⑨～家族支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑪事例学習⑩～就労(雇用)支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑫事例学習⑪～職場ストレス、リワーク支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑬事例学習⑫～貧困、低所得、ホームレス支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑭事例学習⑬～災害被災者、犯罪被害者支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
⑮事例学習⑭～触法精神障害者支援～					【予習・復習】レポート作成	【予習】60分 【復習】60分			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座7 ソーシャルワーク演習(精神専門)」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8258-0 C3036					その他参考文献など: 授業の中で紹介する。				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科

科目名: 精神ソーシャルワーク実習指導 I				担当教員 氏名: 松尾 祐子					
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考				
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択	精神保健福祉士受験資格(必修)			
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:		ソーシャルワーカーとしての実務経験を活かして、福祉現場の実状にそった事例などを用いて支援方法を体験的に学ぶ授業を行っている。							
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
ソーシャルワーク(精神保健福祉士)実習の意義について理解する。 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。					実習施設、個人情報、実習計画書、 実習記録、スーパービジョン				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9				
A 知識・理解力		ソーシャルワーク実習に必要な知識と技術を理解する。							
C 論理的思考力		クライアントの問題を複眼的論理的に分析できる。							
E 自己管理能力		常に自らを律して、他者とコミュニケーションができる。							
G 倫理観		ソーシャルワーク実習における価値規範と倫理を実践的に理解できる。							
H コミュニケーション力		ソーシャルワークの実習に必要なコミュニケーション能力を養う。							
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	10 %
特記事項: 演習への参加姿勢(ロールプレイを含む)、レポートなどで総合的に評価し、その他とは授業態度・姿勢のことである。 アクティブ・ラーニングの一環として、グループディスカッション・ディベートを行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、ディベート <u>グループワーク</u> <u>プレゼンテーション</u> <u>実習</u> 、 <u>フィールドワーク</u>									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 授業の中で適時案内する。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: レポートはコメントと評価をつけて返却する。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①② I の目的と意義				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
③④実習施設・機関の概要①～障害者支援施設				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑤⑥実習施設・機関の概要②～障害者支援施設				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑦⑧実習施設・機関の理解				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑨⑩精神障害者に対する理解～当事者の語りから～				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑪⑫実習先で必要とされる精神保健福祉士としての専門的知識と技術に関する理解				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑬⑭精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑮⑯実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑰⑱実習記録の作成方法				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
⑲⑳実習計画の作成				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
㉑㉒巡回指導				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
㉓㉔実習課題の整理とスーパービジョン				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
㉕㉖実習課題の整理と実習報告書の作成				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
㉗㉘実習報告会				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
㉙㉚実習の振り返りと評価				【予習・復習】レポート作成	【予習】60分	【復習】60分			
一般社団法人日本ソーシャルワーク教育学校連盟編集「最新 精神保健福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導・ソーシャルワーク実習(精神専門)」 中央法規出版 ISBN:978-4-8058-8259-7 C3036				その他参考文献など: 授業の中で紹介する。					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 演習なので、受講生は主体的、積極的に取り組むこと。									

社会福祉学科

科目名: カウンセリング基礎理論				担当教員 氏名: 石津 孝治					
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	講義	選択	福祉心理士			
実務経験を用いてどのよ うな授業を行っているか: 心療内科や学校、施設でのカウンセリング経験を基に実践に通用する知識を提示する。									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
カウンセリングの基礎知識について自ら関心をもつテーマを設定し、学びを深める。また、他の学生のプレゼンから学ぶ。					カウンセリング 学派 理論				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 5. 6. 9.				
A 知識・理解力			カウンセリングについて活用法を理解する。						
D 問題解決力			状況にあった解決法を身につけ、問題解決に努める。						
F チームワーク・リーダーシップ			福祉社会に生きる一員として、他者と協力し目標実現に努める。						
G 倫理観			自らを律し、他者を尊重する倫理観を身につける。						
H コミュニケーション力			言語以外でも他者理解を深めるスキルを身につける。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	60 %	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: カウンセリングの理論や方法などをグループで再確認し、自ら発言することによってより理解を深めます。									
アクティブラーニング要素: 課題解決型学修 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 第1回の授業時に説明します。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 評価をつけて返却します。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な 時間(分)			
①①カウンセリングの定義、学派について					カウンセリングの重要性を整理	120分			
②学生各自のテーマ決定①					テーマ決定に向けた準備考察	120分			
③学生各自のテーマの決定②					テーマ決定に向けた準備考察	120分			
④テーマに基づいた準備学修と指導①					発表に向けた文献を読む	120分			
⑤テーマに基づいた準備学修と指導②					発表に向けた文献を読む	120分			
⑥テーマに基づいた準備学修と指導③					発表に向けた文献を読む	120分			
⑦テーマに基づいた準備学修と指導④					発表に向けた文献を読む	120分			
⑧中間報告会					発表の課題整理	120分			
⑨テーマに基づいた準備学修と指導⑤					発表に向けた文献を読む	120分			
⑩テーマに基づいた準備学修と指導⑥					発表に向けた文献を読む	120分			
⑪テーマに基づいた準備学修と指導⑦					発表に向けた文献を読む	120分			
⑫テーマに基づいた準備学修と指導⑧					発表に向けた文献を読む	120分			
⑬発表①					発表について復習	120分			
⑭発表②					発表について復習	120分			
⑮総括									
使用テキスト:					その他参考文献など: カウンセリングの理論				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ):									

社会福祉学科

科目名: 心理学基礎実験			担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
2	2年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード				
心理学実験の実践を通して、仮説を立て、実験計画を立案し、データを収集・分析し、論文として報告する専門的技術を習得する。					バイアス、実験的統制、精神物理学的測定法、心理尺度、独立/従属変数				
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		2. 3. 6.				
A 知識・理解力			心理学実験の基礎知識を身に付ける						
B 専門的技術			心理学実験を立案・実施する専門的技術を習得する。						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的に考える思考力を身に付ける。						
D 問題解決力			問題を同定し、仮説を立て、必要な情報を収集分析し、問題を解決できる。						
H コミュニケーション力			情報を的確にまとめ、わかりやすく説明できる						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	100 %	発表:	%	実技試験:	%	その他:	%
特記事項: 実際に心理学実験を行いながら、得られたデータを分析し、論文スタイルのレポートにまとめるアクティブラーニングで学ぶ。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 10種の実験それぞれにレポートを課す(10%×10)。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実験レポートを評価し、その都度返却する。									
使用テキスト: 指定テキストはありません。関連資料を授業時に配布しますが、レポート作成に必要な資料は、自ら図書館等で収集してください。				その他参考文献など: 心理学実験ノート編纂委員会(著)心理学実験ノート第5版[二瓶社]; 西口利文・松浦均(著)心理学基礎演習vol.1心理学実験法・レポートの書き方[ナカニシヤ出版]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 「実験」を学ばずして心理学を学んだとはいえません。心理学教育の最重要科目です。心理学実験を体験し、実験技術を習得することによって、心理学の知識が生きたものとなります。アクティブラーニングで学びます。									
授 業 計 画					準備学習(予習・復習等)				
					学習内容	学習に必要な時間(分)			
回数									
1	心理学実験のオリエンテーション(実験の進め方・注意事項・レポートの作成方法等について)				参考文献など心理学実験について書かれた本を読む	30			
2	顔面フィードバック: 実験の実施								
3	(1)ミューラー・リヤー錯視: 実験の実施				錯視についての資料を収集し、錯視の実験レポートを作成する	180			
4	(1)ミューラー・リヤー錯視: データ分析								
5	レポートの作成指導				錯視についての資料を収集し、実験レポートを修正する	90			

※前ページよりつづき

社会福祉学科

科目名: 心理学基礎実験		担当教員 氏名: 竹ノ山 圭二郎	
授 業 計 画		準備学習(予習・復習等)	
		学習内容	学習に必要な時間(分)
6	レポートの改稿	錯視についての資料を収集し、実験レポートを修正する	90
7	(2)触二点閾:実験の実施	感覚測定についての資料を収集し、触二点閾の実験レポートを作成する	180
8	(2)触二点閾:データ分析		
9	(3)奥行き知覚:実験の実施	奥行き知覚についての資料を収集し、実験レポートを作成する	180
10	(3)奥行き知覚:データ分析		
11	(4)仮現運動:実験の実施	仮現運動に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
12	(4)仮現運動:データ分析		
13	(5)心的回転:実験の実施	心的回転に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
14	(5)心的回転:データ分析		
15	(6)印象形成:実験の実施	印象形成に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
16	(6)印象形成:データ分析		
17	(7)記憶のメカニズム-系列位置効果:実験の実施	系列位置効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
18	(7)系列位置効果:データ分析		
19	(8)無意識の情報処理:ストループ効果:実験の実施	ストループ効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
20	(8)ストループ効果:データ分析		
21	(9)概念ネットワーク:プライミング効果:実験の実施	プライミング効果に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
22	(9)プライミング効果:データ分析		
23	生理的指標(心拍)を用いた実験の概要	生理的指標を用いた実験に関する資料を収集し、実験デザインを作る	30
24	生理的指標(心拍)を用いた実験のデザイン		
25	生理的指標(心拍)を用いた実験のデザイン	生理的指標を用いた実験に関する資料を収集し、実験レポートを作成する	180
26	(10)生理的指標(心拍):実験の実施		
27	知覚と行為のアフォーダンス-「くぐり」と「またぎ」:実験の実施	アフォーダンスに関する資料を収集し、まとめる	30
28	知覚と行為のアフォーダンス-「くぐり」と「またぎ」:データ分析と考察		
29	パワーポイントを用いたプレゼンテーション資料作成	実験データを用いてパワーポイント・プレゼンテーション資料を作成する	30
30	パワーポイントを用いたプレゼンテーション技法		

社会福祉学科

科目名: 心理学基礎実習			担当教員 氏名: 竹ノ山圭二郎						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	選択				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:									
授業科目の学習教育目標の概要:						キーワード			
心理学調査の技術を習得し、自ら心理学調査を立案し、データを収集・分析し、得られた成果を社会に向けて公表する力を身に付ける。						調査、心理尺度、サンプリング、信頼性と妥当性、研究倫理			
授業における学修の到達目標									
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号)		1. 2. 3. 6. 7.				
B 専門的技術			心理学調査を立案・実施する専門的技術を身に付ける。						
C 論理的思考力			人間の行動や心理について科学的に思考する力を身に付ける。						
D 問題解決力			問題を同定し、情報を収集・分析し、解決策を提案できる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学則および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	40 %	発表:	40 %	実技試験:	%	その他:	20 %
特記事項: 調査計画レポート(40%)と調査結果発表(40%)および調査実施に向けた貢献度(20%)に基づいて成績評価を行う。実際に調査計画を立案し、調査を実践するアクティブラーニングで学ぶ									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学習 <u>ディスカッション</u> 、 <u>ディベート</u> グループワーク <u>プレゼンテーション</u> 実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 発表は第8回と第15回に行う。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 中間期と期末にフィードバックする。									
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)					
				学習内容	学習に必要な時間(分)				
①心理学基礎実習のオリエンテーション(実習の進め方等について)				心理学的調査	30				
②心理学調査法1(データ収集の方法)				データ収集の方法	30				
③心理学調査法2(質問紙の作成法)				質問紙の作成	30				
④心理学調査法3(結果の処理方法)				結果の処理	30				
⑤心理学調査の計画立案				調査のテーマ	30				
⑥文献調査				調査テーマに関する文献調査	60				
⑦心理学調査計画発表の準備				調査計画の立案	60				
⑧心理学調査計画発表				調査計画の発表資料作成	60				
⑨予備調査の準備				予備調査の検討	30				
⑩予備調査の実施				予備調査の実施準備	60				
⑪質問紙の作成				質問紙の作成	60				
⑫心理学調査の実施				本調査の実施準備	60				
⑬調査結果の分析				結果についての文献調査	120				
⑭調査結果発表の準備				調査結果のまとめ	60				
⑮調査結果の発表				発表資料作成	120				
使用テキスト: テキストは不要。必要な資料等は授業時に提供します。				その他参考文献など: 鎌原・宮下・大野・中澤(編)心理学マニュアル質問紙法[北大路書房]					
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): グループで協力して、自分たちの問題意識に基づいて、心理学的な調査計画を立案し、実際に実施してデータを収集し、結果を分析・報告します。グループへの貢献度も発表の評価対象に含まれますので、積極的に参加してください。アクティブ・ラーニングで学びます。									

社会福祉学科

科目名: ソーシャルワーク実習 I				担当教員 氏名: 鷹西 恒 宮嶋 潔 松尾 祐子		
単 位	開講時期(年次・期)	科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考	
4	2年次 前期	専門科目	実習	選択	社会福祉士受験資格(必須)	
実務経験を用いてどのような授業を行っているか: 実習機関の機能に沿って、各領域の社会福祉の役割の理解を深める						
授業科目の学習教育目標の概要:					キーワード	
社会福祉の実践現場で、相談援助活動に係る知識と技術の基本を学ぶことを目的とする。ソーシャルワーク実習指導で行われる実習の事前・事後の学習と合わせて、社会福祉への理解を確かなものとしてほしい。					現場実習、実習計画書・記録・報告書等の書き方、報告会	
授業における学修の到達目標						
学習教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)		自己形成を進める行動 目標		1. 2. 3. 5. 6. 7. 8. 9. 10		
B 専門的技術	ソーシャルワークの専門技術を実習現場で活かすことができる。					
E 自己管理能力	事前学習、実習中の実習記録(日誌)の作成と提出、報告書の作成提出を適切に行う。					
F チームワーク・リーダーシップ	実習現場の職員との連携等を行うことができる。					
G 倫理観	ソーシャルワークの価値と倫理を元にした援助を実施できる。					
H コミュニケーション力	実習現場において、利用者やその家族、職員等とのコミュニケーションを実践できる。					
成績評価の方法・基準: 実習配属先での評価や実習記録等から総合的に判断する。						
テスト: %	レポート: %	発表: %	実技試験: %	その他: %		
特記事項:						
アクティブラーニング要素: 課題解決型学習 ディスカッション、ディベート グループワーク プレゼンテーション (実習、フィールドワーク)						
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 8月。180時間以上・24日以上 ※配属先の事情により時期が異なる場合がある。						
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法: 実習評価票(コピー)の返却とスーパービジョンを行う。						
授 業 計 画				準備学習(予習・復習等)		
				学習内容	学習に必要な時間(分)	
・配属先の施設・機関のプログラムにそって、180時間以上・24日以上の実習を行う。				分野別の指導内容によって異なる	【予習】60分 【復習】60分	
・この間担当教員による巡回指導が行われる。				実習場所の指示に従って学習を行う	【予習】60分 【復習】60分	
本実習は社会福祉士及び介護福祉士法により規定された指定施設(実習機関)において、社会福祉士受験資格取得に必要な240時間以上のうち180時間以上の実習を行うことを目的としている。特に配属地域及び実習施設・事業所等において、以下の項目にて実習指導者による指導を受けるものとする。						
①利用者やその関係者(家族・親族、友人等)、施設・事業者・機関・団体、住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや円滑な人間関係の形成						
②利用者やその関係者(家族・親族、友人等)との援助関係の形成						
③利用者や地域の状況を理解し、その生活上の課題(ニーズ)の把握、支援計画の作成と実施及び評価						
④多職種連携及びチームアプローチの実践的理解						
⑤当該実習先が地域社会の中で果たす役割の理解及び具体的な地域社会への働きかけ						
⑥地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解						
⑦施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際(チームマネジメントや人材管理の理解を含む。)						
⑧社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任の理解						
⑨ソーシャルワーク実践に求められる以下の技術の実践的理解						
使用テキスト: ソーシャルワーク実習指導要綱 最新社会福祉士養成講座8 ソーシャルワーク実習指導 ソーシャルワーク実習(中央法規) ISBN: 978-4-8058-8251-1				その他参考文献など:		
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 実習は社会福祉の利用者の生活の場で行われる。このことを十分認識した上で臨んでほしい。実習は通勤または宿泊の形式で行い、配属先は学生の希望分野等を参考に教員が決定する(原則として)。						

社会福祉学科

科目名: 福祉心理研究 I			担当教員 氏名: 社会福祉学科教員						
単 位	開講時期(年次・期)		科目の区分	授業方法	(卒業要件) 必修/選択	備考			
1	2年次	前期	専門科目	演習	必修				
実務経験を用いてどのような授業を行っているか:			福祉・医療・心理分野の実務経験を有した教員が、多方面の研究経歴と研究経験をともに、福祉・心理全般の諸課題について研究論文作成の指導をする。						
授業科目の学修教育目標の概要:					キーワード				
自身で研究テーマを決定し、1年間を通して福祉・心理に関する研究を、AD教員の指導のもとに取り組み、課題解決や実践現場のプロとしての研究法を身につける。					研究計画 研究アプローチ 考察				
授業における学修の到達目標									
学修教育目標 (卒業認定・学位授与の方針との関連)			自己形成を進める行動目標 (福短マトリックスで示される番号) 2. 5. 8. 9.						
A 知識・理解力			福祉・心理に関する研究に関する知識を、指導や文献調査によって修得することができる						
B 専門的技術			福祉・心理に関する実践的専門技術を、研究を通して学ぶことができる						
C 論理的思考力			想起・研究・考察・実践のプロセスを理解し、思考することによって課題解決を模索することができる						
D 問題解決力			研究を通して、問題・課題を明確化し、対応策を模索することができる。						
成績評価の方法・基準: 以下の方法により評価し、学期および履修要項に従い、60点以上を単位認定とする									
テスト:	%	レポート:	%	発表:	50 %	実技試験:	%	その他:	50 %
特記事項: その他とは、1年間を通しての研究の取り組みの姿勢、提出物等の遵守をいいます。本科目は、アクティブ・ラーニングの一環として、学生が実際に調査・研究活動を行う。									
アクティブラーニング要素:									
課題解決型学修									
ディスカッション、ディベート									
グループワーク									
プレゼンテーション									
実習、フィールドワーク									
テスト・レポート・発表・実技試験等の実施時期: 後期の始めに中間報告会、年度の終わりに発表会を行います。それに関する論文等の提出を義務付けます。									
課題(試験やレポート等)に対するフィードバックの方法:									
授 業 計 画					準備学修(予習・復習等)				
					学修内容	学修に必要な時間(分)			
①年間の予定の確認・研究とは【宮嶋】					【復習】30分				
②研究方法【宮嶋】					【予習】60分 【復習】60分				
③以降、指導教員ごとに展開					各ADごとの取り組みとなるため、統一した学習内容ではない。 【予習】60分 【復習】60分				
④研究テーマ及び方法を考える					【予習】60分 【復習】60分				
⑤研究テーマの決定					【予習】60分 【復習】60分				
⑥研究テーマ・サブタイトルを考える					【予習】60分 【復習】60分				
⑦研究計画を立てる					【予習】60分 【復習】60分				
⑧以降、研究活動					【予習】60分 【復習】60分				
⑨					【予習】60分 【復習】60分				
⑩					【予習】60分 【復習】60分				
⑪					【予習】60分 【復習】60分				
⑫					【予習】60分 【復習】60分				
⑬					【予習】60分 【復習】60分				
⑭					【予習】60分 【復習】60分				
⑮中間報告会					【予習】60分 【復習】60分				
使用テキスト: 各自研究テーマに関する資料を提示する。					その他参考文献など:				
受講上の留意点(担当者からのメッセージ): 積極的に、探究心を持って取り組んでください。									